

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 誠和	代表者	赤島 耕一路	法人・事業所の特徴	当法人は、地域の中で20年の運営実績があり、特別養護老人ホームを中心に多種の高齢者施設を運営しているため、介護度や状況に合わせたサービス事業所の選択が可能となっている。また、法人全体で、地域福祉の向上に取り組んでいる。
事業所名	グレースケアあじさい	管理者	米盛 宏康		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	1人	人	人	人	人	2人	人	4人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	職員間で話し合う場、カンファレンスを開催し情報共有、スキルアップをする。	短時間でも情報共有の時間を確保して、話し合いをすることができた。カンファレンスとしては、毎月実施することはできなかった。		書類の作成時、外部評価時の書類は、直接手渡しをして、事前に説明をする。職員間で情報共有をして、カンファレンスを必ず毎月実施する。
B. 事業所のしつらえ・環境	引き続き劣化部分の点検・修繕と必要物品を購入で過ごしやすい生活空間を作る。	劣化部分はその都度、修繕することができている。また、必要備品等の購入により、快適な室内空間を作ることができた。	他施設と比べて、清潔空間を作ってもらえている。いつも綺麗にしている。	引き続き劣化部分の点検・修繕と必要物品を購入して過ごしやすい生活空間を作る。
C. 事業所と地域のかかわり	「あじさい喫茶」がマンネリ化しないように開催期間、内容を見直す。	あじさい喫茶は、地域のサロンで紹介やあじさい便りで案内する事で、地域の方が参加する	送迎時に行事があった事やその時の様子など伝えてくれることが良かった。	あじさい喫茶は、徐々に地域からの参加が増えている。施設内での案内や地域への案内を工夫して、地域交流が図れるようにする。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み	年間計画に沿った行事内容を実施。個々のニーズを把握して活動への参加を図る。また、地域資源の発掘など情報を把握。	今年度は、外への行事企画は少なく内部で毎月催しを開催した。偏りがないように地域へ出て行ける内容も企画する。	地域交流カフェには、どの辺りの地区の人が来ているのか。地域への案内はどのような方法で行っているのか。	年間計画に沿った行事内容を実施。地域へ出て行く行事への参加。文化祭への出展など地域に活動内容など知っていただく。また、地域のサロン会へ行くなど関わる機会を作る。行事の年間計画を年度初めに家族へ配布しておく。
E. 運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議の内容を見直し、案内を文章で配布後に口頭での案内をして、気軽に参加できるようにする。	運営推進会議の案内は郵送していたが、参加者は少ない。困りごとなど、その都度、ケアマネジャーへ相談できる体制は出来ている。	人が集まらない。在宅と施設の違いもあるが、開催曜日、時間等の変更も検討してはどうか。	配布書類や家族への口頭説明をして、気軽に参加できるようにする。特に新規利用者家族への説明をわかりやすく丁寧に家族参加者を増やす。
F. 事業所の防災・災害対策	避難訓練時の様子をホームページやあじさいだよりを活用して報告。避難訓練の回数を増やす。	年間計画だけでは、把握できていない部分もある。事業所内で、災害時の職員の動きについて話をする。防犯についても訓練を行えるようにする。	法人として、福祉避難所になっており、災害時にも頼りにしている施設。	年間計画に沿った避難訓練を実施。不審者対応など防犯訓練の実施。年間計画書を年度初めに家族へ配布しておく。

